

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	ミクロ経済学（Microeconomics）		
ナンバリングコード	E20402	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 標準レベル 経済学
単位数	4	配当学年 / 開講期	2 年 / 前期・後期
必修・選択区分	選択必修:経営経済学部 コース選択必修:情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E005951	クラス名	-
担当教員名	今西 衛		
履修上の注意、履修条件	経済科目選択必修です。産学一致教育によるグループワークを中心とした講義となります。ミクロ経済学を理解することには、講義の前に予習と復習が必要です。また、講義時に出される課題を自分の力解くことで、より一層の理解が深まります。積極的な講義への参加を求めます。本講義はグループワークを中心に展開する。欠席はグループワークへの貢献度の評価に直接影響するため、十分注意すること。		
教科書	初めて学ぶミクロ経済学 柴田舞 新世社 ISBN-13 : 978-4883843633		
参考文献及び指定図書	参考文献は備考欄を参照して下さい。		
関連科目	マクロ経済学、国際経済学、公共経済学、財政学、経済学入門、統計学		

○基本情報		
授業の目的	本講義は、産学一致教育である。 本講義の目的は、ミクロ経済学の理論（ディシプリン）を知識に留めず、社会課題を解き明かし意思決定を行う実践的な「武器」へと昇華させることにある。 具体的にはIR情報による企業分析から始め、企業の経営課題というリアルな題材に取り組む。理論と現場のデータや制約を往復し、客観的根拠に基づき最適解を導き出す当事者意識を持った思考力を養う。 グループワークを通じて、他者と協調しながら論理的な解決策を構築する実践的なスキルの獲得を目指す。	
授業の概要	本講義では、ミクロ経済学の理論を現代社会の具体的な諸問題に適用し、論理的な解を導き出すプロセスを学ぶ。まず、キャリア形成における機会費用や、IR情報を活用した企業の利益構造分析を行い、経済学的視点から実情を把握する基礎を固める。次に、実際の企業を題材とし、運賃制度の制約や不採算路線の維持といった現実の経営課題に対し、消費者行動と生産者行動の両面から理論的な分析を加える。最終的には、現場の統計データと制度的枠組みに基づき、制約条件下での最適解を模索するグループワークを行う。理論と実践を往復することで、社会で通用する意思決定能力を習得する。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
地域志向科目	カテゴリー I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	実社会の経済問題にたいして、主体的に解決策を模索しようとする当事者意識を持っている。		10点	10点
【知識・理解】	ミクロ経済学の理論を理解し、実際の事例やデータと結びつけて説明できる	20点	10点	10点
【技能・表現・コミュニケーション】	グループワークにおいて、他者と高度な対話を行い、協調しながら論理的な解決策を構築し、発信することができる。		10点	10点
【思考・判断・創造】	現場の生データと理論を往復しながら、客観的エビデンスに基づき、制約条件下における最適解を論理的に導き出すことができる。		10点	10点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
評価基準(到達レベル) S:ミクロ経済学の理論を深く修得し、実社会の課題において、理論を応用し最適解を導き出す高度な能力を有している。 A:ミクロ経済学を正しく理解し、IR分析や経営課題解決など、多様な分野への展開・応用ができる。 B:講義およびグループワークに主体的に参加し、他者と協調して課題解決に取り組む姿勢が認められる。 C:ミクロ経済学に関心を持ち、基礎的な知識を習得している。 評価方法およびフィードバック 提出された課題については、採点後に返却するとともに、講義内で全体的な傾向やポイントの解説を行う。各自、フィードバック内容を再確認し、学習成果の向上に繋げること。

○その他
授業計画や講義内容については、企業の対応状況・レポートの採点結果、習熟度に応じて内容を変更する場合があります。
参考文献 西村和雄、(2011)、『ミクロ経済学 第3版(現代経済学入門』、岩波書店、ISBN-13: 978-4000266550 武隈慎一、(2016)、『ミクロ経済学 新経済学ライブラリー4』、新世社、ISBN-13: 978-4883842391 井堀 利宏、(2018)、『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる(角川文庫)』、KADOKAWA、ISBN-13: 978-4046040572 公務員勉強の入門書として以下を挙げます。 茂木 喜久雄、(2011)、『試験対応 らくらくミクロ経済学入門 改訂版(らくらく経済学入門シリーズ)』、週刊住宅新聞社、ISBN-13: 978-4784813728 これからの経済学のために是非とも読んでもらいたい図書として以下をあげます。 参考書 友寄英隆、AIと資本主義―マルクス経済学では こう考える、本の泉社、ISBN-13:978-4780719277 リチャード・クー、「追われる国」の経済学: ポスト・グローバリズムの処方箋、東洋経済新報社、ISBN-13:978-4492444511 新井和宏、持続可能な資本主義―100年後も生き残る会社の「八方よし」の経営哲学、ディスカヴァー・トゥエンティワン、ISBN-13:978-4799324226 リンダ・ユー、アダム・スミスはブレグジットを支持するか?: 12人の偉大な経済学者と考える現代の課題、早川書房、ISBN-13:978-4152098566 佐々木実、資本主義と闘った男 宇沢弘文と経済学の世界、講談社、ISBN-13: 978-4065133101 ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、データ資本主義(ビッグデータがもたらす新しい経済)、エヌティティ出版、ISBN-13:978-4757103825 岩井克人、資本主義と倫理: 分断社会をこえて、東洋経済新報社、ISBN-13:978-4492961582

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	ミクロ経済学（Microeconomics） 今西 衛	授業コード	E005951
学修内容				
1. ミクロ経済学とは(1)（産学一致教育の進め方） ミクロ経済学の概要 および、産学一致教育について説明する。そのうえで、ミクロ経済学が単なる理論ではなく、実社会の課題解決のための武器であることを理解する。また、ディシプリンとして、経済学の概要を復習する。【教科書 第1章】				
予習	1週間前までに教科書の当該箇所とクラスルームで配布する参考資料事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	産学一致教育の意義と、本講義におけるグループワークの重要性を再確認すること。			約2時間
2. 予算制約 消費者が直面する予算制約について、第3章の内容に基づき解説する。2財モデルにおいて価格や所得の変化が消費行動にどのような影響を与えるかを、予算線を用いて分析する。【教科書第3章】				
予習	予習：教科書の第3章を読み、予算制約の概念について確認しておくこと。			約2時間
復習	講義で扱った予算線のグラフをもとに、価格変化や所得変化がもたらす予算線の動きを整理しておくこと			約2時間
3. 無差別曲線 消費者の嗜好をグラフ化した無差別曲線について学習する。効用（満足度）の概念を基礎とし、財の組み合わせにおいて、同一の効用をもたらす点をつないだ無差別曲線の性質を、直感的に理解する。【教科書第3章】				
予習	教科書の第3章（無差別曲線の項目）を読み、効用の意味について確認しておくこと。			約2時間
復習	無差別曲線の性質を整理しその理由を説明できるようにしておくこと。			約2時間
4. 最適消費点 予算制約の下で効用最大化問題の答えである最適消費点を学ぶ。限界代替率が予算制約線の傾きと一致する接点の意味を図解し、無差別曲線を描く演習を行う。また、予算や価格の変化が消費行動に与える影響を比較静学の視点から考察する。【教科書 第4章】				
予習	第4章の予算制約線と無差別曲線の性質を読み、自身の通学状況を確認しておくこと			約2時間
復習	最適消費店の変化を振り返り、価格変化が自身の消費選択に与える影響を検証すること。			約2時間
5. 企業による特別講義：企業の見方 産学一致教育の一環として、企業から講師を招き、企業の視点に基づいた「機会費用」と「生涯所得」の概念を学ぶ。教科書の理論が実社会においてどのように適用され、個人のキャリア形成や企業的意思決定に影響を与えるかを考察する。【教科書 第2章】				
予習	第2章の機会費用の項目を読み、自身のキャリア選択におけるコストを考えておくこと。			約2時間
復習	講義内容を振り返り、生涯所得の最大化と機会費用の関係について自身の考えをまとめること。			約2時間
6. IR情報から読み解く企業の見方 第5回の講義内容を踏まえ、実際の企業のIR情報を活用して、企業的意思決定プロセスを検証する。また、将来の就職活動を見据え、IR情報から企業の機会費用や生涯所得の可能性を読み解く実践的な復習を行う。【教科書第2章・第6章】				
予習	講義で扱う予定の企業のIRサイト（投資家情報）を確認し、直近の決算概要に目を通しておくこと。			約2時間
復習	紹介されたIR指標を参考に、自身のキャリア選択における機会費用について改めて考察すること。			約2時間
7. 企業IR情報分析の深掘り IR情報をさらに深掘りし、実在する複数の企業IR情報を比較分析する。第5回で提示された「企業の見方」や「生涯所得」の概念を軸に、公開データから企業の将来性や意思決定の背景を詳細に読み解く。これにより、理論が実社会の経済活動や個人のキャリア選択にどのように直結しているかを完結に整理する。【教科書第2章・第6章】				
予習	資料を振り返り、自身の関心がある企業の最新情報を収集しておくこと。			約2時間
復習	講義での分析事例を参考に、就職活動における具体的な意思決定の基準を自分なりに言語化すること。			約2時間
8. 産学一致教育：財務諸表から読み解く企業の経済活動 IR情報分析および企業の見方を踏まえ、企業から講師を招いて、財務諸表の具体的な読み方を講義する。売上、利益、資産などの指標が、これまでに学んだ経済学的視点とどのように連動しているかを、実務の最前線の視点から学ぶ。【教科書第6章】				
予習	企業の財務ハイライトを再度確認し、疑問点を整理しておくこと。			約2時間
復習	講義で解説された財務指標に基づき、企業の成長性や安定性を経済学の概念を用いて分析し直すこと。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	ミクロ経済学（Microeconomics） 今西 衛	授業コード	E005951
学修内容				
9. 会社四季報の読み方 投資家のバイブルとされる『会社四季報』の構成を理解し、企業の業績、財務状況、株主構成などの情報をどのように読み解くかを学ぶ。IR情報や財務諸表の知識を、より汎用的な企業データ分析へと応用する。【教科書第6章】				
予習	『会社四季報』を確認し、どのような項目が並んでいるか把握しておくこと。			約2時間
復習	特定の企業の四季報データを参照し、業績予想や特色から企業の現状を記述できるようになること。			約2時間
10. 会社四季報の読み方2 ミクロ経済学の概念を現実の企業行動に結びつけるための生きたケーススタディとして、決算説明会資料等を活用し、市場のランキングやニュースを考察する。【内容 第6章、第7章、第8章、第12章】				
予習	第6章の復習、第7章・第8章・第12章の該当箇所を予習しておくこと。			約2時間
復習	特定の企業のIR情報から、市場シェアや売上高など市場における立ち位置を記述できること			約2時間
11. 所得の変化(上級財・中級財・下級財) 所得の変化(上級財・中級財・下級財)が消費行動に与える影響を学ぶ。所得の変化が最適消費点にどのような変化をもたらすかを、グラフを用いて理解する。【教科書第4章】				
予習	第4章の最適消費計画の基本を復習しておくこと。			約2時間
復習	所得の増減によって、各財の消費量がどのように変化するかを整理すること。			約2時間
12. 価格の変化 所得効果・代替効果 価格の変化に伴う需要の変化について学ぶ。需要関数と、エンゲル関数の違いなど、注意すること。【教科書 第4章】				
予習	1週間前までに教科書の当該箇所とクラスルームで配布する参考資料事前に読んでおくこと。			約2時間
復習	ギッフェン財は存在するのか調べよう。			約2時間
13. 実際のデータから見た利潤最大化問題(1)(現状分析編) 企業から提供された実数データを用い、生産を1単位増やした際に追加で発生する費用と、それによって得られる収入の変化を比較する。現場のデータから、現在の生産活動がどの程度の効率にあるかを客観的に把握する。【第6章・第7章】				
予習	教科書第6章・第7章を読んでおくこと			約2時間
復習	提供された実際の企業データに基づき、どのような課題があるか押さえておくこと			約2時間
14. 利潤最大化問題と企業的意思決定(判断基準編) 利潤の有無を判断する基準となる損益分岐点や、生産を継続するか否かの境界である操業停止点に考察する。【教科書第7章】				
予習	第7章を読み、限界費用の概念と利潤最大化の条件について基本事項を整理しておくこと。			約2時間
復習	価格の変化に応じて企業が供給量をどのように調整するか、説明できること。			約2時間
15. 実際のデータから見た利潤最大化問題(2)(最適化実践編) 市場環境の変化や制度的な制約条件のもとで、最も望ましい供給量をどのように決定すべきか、理論的な最適解と、現場の制約をどのように折り合わせるか、具体的な意思決定プロセスを体験する。また、次回の分析に向け、RESAS(地域経済分析システム)から得られる地域固有のデータが、企業の需要予測にどのように関わるかの導入を行う【教科書第7章】				
予習	市場価格や需要が変動した際に、供給量をどのように調整すべきか、自身の予測をまとめておくこと。			約2時間
復習	講義で提示された実際の経営判断の事例に基づき、その論理的なつながりを整理すること。			約2時間
16. 実際のデータから見た利潤最大化問題(産学一致教育) RESASなど人口に基づいた需要予測と、利潤最大化問題を考える【教科書第5章 第7章】				
予習	RESASの使い方に慣れておくこと			約2時間
復習	RESAS等のデータから得られた需要予測ができるようになること			約2時間

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	ミクロ経済学（Microeconomics） 今西 衛	授業コード	E005951
学修内容					
17. 企業データから見る利潤最大化の実践（産学一致教育） 企業から講師に招き、価格決定や費用構造について実務的な視点から学ぶ。実際のデータに基づいた経営判断の在り方を考察し、実践としての利潤最大化が現場でどのように適用されているかを理解する					
予習	講義してくれる企業を事前に調べておくこと				約2時間
復習	講義の内容をまとめておくこと				約2時間
18. 振り返り 第17回の講義内容を振り返り、実務における企業の意思決定とミクロ経済学の理論を比較する。現実の複雑な費用構造や価格決定が、理論上の利潤最大化条件とどのように整合するか議論する【第7章】					
予習	第17回の講義資料やメモを読み返し、経営上の課題や費用に関する具体的数値を整理しておくこと。				約2時間
復習	理論上の生産者行動と実務の乖離を自身の見解をまとめること。				約2時間
19. シミュレーション(グループワーク) RESASから得られる人口動態や流動人口のデータを用い、特定の路線や地域における将来の需要予測を行う適切な運賃設定や供給量(運行頻度等)をグループでシミュレーションし、経済学的な観点から最適な経営判断を導き出す。					
予習	RESASの基本操作を確認し、分析対象となる地域の人口構成や将来予測データを事前に収集しておくこと。				約2時間
復習	理論上の最適解と現実の制約をどのように折り合わせたか、論理的に説明できるようにすること。				約2時間
20. 生産の理論（産学一致教育） 完全競争市場における生産者の生産活動を見ていく【教科書 第6章】					
予習	教科書第6章を読んでおくこと				約2時間
復習	限界生産力が変化する理由を生産関数の形状から説明できること。				約2時間
21. 利潤最大化問題（産学一致教育） 利潤の有無を判断する基準となる損益分岐点や、生産を継続するか否かの境界である操業停止点に考察する。【教科書第7章】					
予習	第7章を読み、限界費用の概念と利潤最大化の条件について基本事項を整理しておくこと。				約2時間
復習	価格の変化に応じて企業が供給量をどのように調整するか、説明できること。				約2時間
22. 市場均衡 需要と供給が一致する市場均衡の概念を理解し、均衡価格の決定プロセスを学ぶ。価格の変化によって需給が調整されるワルラス的な調整過程と、数量の変化によって需給が調整されるマーシャル的な調整過程の違いを比較し、それぞれの安定条件について考察する。【教科書第9章】					
予習	教科書第9章を読み、需要曲線と供給曲線の交点としての市場均衡の定義を確認しておくこと。				約2時間
復習	ワルラス的調整とマーシャル的調整プロセスを説明できること。				約2時間
23. 部分均衡分析 部分均衡分析である、消費者余剰、生産者余剰、社会余剰について学ぶ。【内容 第10章・第11章】					
予習	教科書の第10章・第11章を読み、消費者余剰と生産者余剰の定義を確認しておくこと。				約2時間
復習	物価上昇が経済にどのような影響を与えるか部分均衡分析で考えよう				約2時間
24. 課税の効果 市場均衡に対する課税の効果を、部分均衡分析の枠組みで理解する。従量税と従価税の仕組みを学び、課税が需要曲線や供給曲線をどのようにシフトさせ、新たな均衡価格と取引量を決定するかを分析する。【内容 第10章・第11章】					
予習	第10章・第11章の余剰分析を復習し、従量税と従価税の定義について確認しておくこと。				約2時間
復習	課税によって、死荷重が発生する理由を論理的に説明できること。				約2時間

○授業計画	科 目 名	ミクロ経済学（Microeconomics）	授業コード	E005951
	担当教員	今西 衛		
学修内容				
25. グループワーク:ミクロ経済学の実践的考察(1)				
ミクロ経済学の理論を、具体的な現実課題に適用し、グループごとに考察と提案を行う。例えば、消費者が「公共交通機関」と「自家用車」のどちらを選択するかという課題に対し、消費者行動の選択理論（予算制約と効用最大化）を用いて分析する。経済学的観点から論理的な施策提案を導き出すプロセスを体験する。				
予習	これまでに学んだ内容を復習し、自身の関心がある地域課題や経済事象についてメモを作成しておくこと。			約2時間
復習	他者の意見や分析手法を振り返り、自身の論理構成に不足していた視点を整理すること。			約2時間
26. グループワーク:ミクロ経済学の実践的考察(2)				
第25回の復習で整理した点を踏まえ、企業向けのプレゼンテーション資料の骨子を作成する。				
予習	前回のグループワークの結果を整理し、不足しているデータや理論的裏付けを明確にしておくこと。			約2時間
復習	作成した資料の論理構成を見直し、ミクロ経済学の用語や概念が正しく適用されているか確認すること。			約2時間
27. グループワーク:ミクロ経済学の実践的考察(3)				
企業向けの最終プレゼンテーションスライドを完成させる。分析結果に基づく提言が、実際の経営環境において実現可能か、また経済学的に妥当であるかをグループ内で最終検証する。視覚的なわかりやすさと、論理的な厳密さを両立させた資料作成を行う。				
予習	グループ内で分担した資料作成の進捗を管理し、統合できる状態にしておくこと。			約2時間
復習	完成したスライドを用いて、自身の担当箇所を論理的に説明できるように準備すること。			約2時間
28. 成果発表:ミクロ経済学を用いた施策提案				
グループごとに作成した企業向けスライドを用い、実務家を交えた成果発表を行う。ミクロ経済学の理論（消費者行動、費用構造、市場均衡等）に基づいた現状分析と、それに対する具体的な改善策や新規施策の提案を論理的に提示する。質疑応答を通じて、理論の現実適用における課題や、経済学的視点の有用性について実証的に理解を深める。				
予習	完成したプレゼンテーション資料の最終確認を行い、グループ内での発表手順を徹底しておくこと。			約2時間
復習	発表時に受けた質疑や指摘事項を整理し、理論と実務の乖離や補完関係について自身の見解をまとめること。			約2時間
29. プレゼンテーションの振り返りと理論的再検討				
第28回のプレゼンテーションで受けた質疑応答や指摘事項を整理し、分析の妥当性を振り返る。特に、実務担当者から提示された現場の制約条件が、ミクロ経済学のモデル（効用最大化や費用最小化）においてどのような変数や制約式として解釈できるかを再検討し、理論と実務の接続点について理解を深める。				
予習	発表時に受けた質問やアドバイスをグループ内で共有し、論理的な回答案や修正案を作成しておくこと。			約2時間
復習	指摘された課題について、教科書の該当箇所を再度読み込み、理論的な不備がなかったか検証すること。			約2時間
30. 実学としてのミクロ経済学				
講義全体を通じた学習内容を総括する。産学一致教育を通じて学んだ内容が、消費者行動理論や市場均衡分析といかに密接に関連していたかを解説する。ミクロ経済学が単なる抽象的な理論ではなく、現実の社会課題を解決し、最適な意思決定を導くための強力なツールであることを確認する。				
予習	これまでの全講義の内容を振り返り、自身が最も重要だと感じた経済学的概念について整理しておくこと。			約2時間
復習	ミクロ経済学の視点が自身の今後のキャリアや社会理解にどう役立つかについて考察をまとめること。			約2時間
31. 期末試験				
筆記試験を行います。				
予習	試験勉強			約2時間
復習	試験解答解説			約2時間
32.				
予習				
復習				